

絵馬灯籠 山里にふわり 安芸市・奈比賀



山里の宵闇に柔らかな明かり。15日夜、安芸市奈比賀地区の夏祭りで絵馬灯籠がお目見えした。大学生らの協力で昨年、今年も約80基が天満宮の参道などをふんわりと彩った。同地区は伊尾木川の中流域に

絵馬灯籠の優しい光が参道を照らした
(安芸市奈比賀 新田祐也撮影)

あり、約90人が暮らす。祭りは毎年6月に奈比賀天満宮で2日間行われ、境内や近くの星神社の参道へと続く道を、小中学生らが描いた絵馬灯籠で飾ってきた。

高齢化が進む中、祭りは2016年を最後に途絶えていたが、昨年、市の地域おこし協力隊や高知県立大学の学生の協力を得て復活。今年は学生16人が飾り付けなどに参加した。

日暮れとともに住民らが集まり、あいさつを交わしながら参道をそぞろ歩き。「子どもの時に見た景色をまた見られた。うれしい」。幻想的で優しい光を眺めながら、近況報告にも花が咲いた。

学生の1人は「地域の方が力を合わせて伝統を守ってほしい」。部落長の佐伯豊臣さん(73)は「過疎になっても、こうして若い人たちの力を借りて、みんなが集まった。何とかして伝統ある祭りを続けていきたい」と話していた。(深田恵衣)